

保育所での情報教育の保育事例 - 情報で遊びが楽しくなる -

池田 勇

植木保育園

kamaken9@gmail.com

保育所保育指針等では「社会生活との関わり」のなかに情報教育の基礎・基本となる内容が示されている。保育所(園)(以下、保育所)での保育内容には、すでに一部が情報教育と考えられるものがある。子どもや保育士が情報を使うことで、遊びが楽しくなる2つの事例を紹介したい。

1. はじめに

高度情報化社会が進展し、各地域で無線Wi-Fiが整備され、各家庭にはスマートフォンやタブレットパソコン等の情報通信端末が複数普及し、テレビもインターネット接続が可能となっている。

未就学児は正に情報化社会で生まれ育っている。

保育所でも子どもたちが情報を活用し遊びが楽しくなる保育事例がある。

2. 保育所保育指針⁽¹⁾での情報教育

新しい保育所保育指針⁽¹⁾のなかには、未就学児が通う保育所・幼稚園・こども園等の幼児教育を行う施設の共有すべき事項として、新たに、小学校との接続を重視した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。そのなかの「社会生活との関わり」に、子どもの遊びを通じての情報の収集や活用等情報教育にかかわる基礎・基本的な内容が組み入れられている。

3. 5歳児(年長)クラスの保育事例

3.1 友だちと本物の木からの情報

木をテーマにした保育内容の一部となる。今回は大きな木をたくさん探し、木と触れイメージを膨らませ、各自で絵を描き、最後にグループで大きな絵を描く予定である。

保育士から「裏の山に大きな木があるそうよ。探しに行こう。」と子どもたちへ話しかける。子どもたちと保育士で裏山へ探検に出かける。山のなかへ入り、木の根をロープ代わりにして登り出す。ある子どもが「木に穴がある。」と話すと周りの子どもが集まってきた。他の数名から「大きな木があったぞー。」「どんな木?」「(幹が)4つに分かれている大きな木。」などの会話が続く。「この木はつつるつつしている。」「こっちはゴツゴツしてる。」「こっちは木は倒れている。」その都度、近くの友達が見て触って確認している。

その後、山を下り、他の保育士にどんな木があったかを伝えた。翌日、各自で木の絵を描き、再度山に入

っていない保育士へその絵を使って説明をした。次にグループで話し合いながら大きな木の絵を描いた。

実際に木を見て触り香りなども感じ、友だちの言葉から自分が気付かなかったことを知ることができた。子どもが友だちや保育士へ伝えることで楽しさが増している。絵を描く時には、より本物らしく工夫するため実際の木から得た情報を使っている。

3.2 地域からの情報

地域の方から、「梅の実がなっているので取りに来てもいいですよ。」と連絡を頂いた。早速、保育士から子どもたちへ「梅シロップをつくって、保育園のみんなに飲んでもらおう。近くの神社に梅の木があって、梅が取れると近所の方から聞いたよ。」と伝えた。午前中に梅の木の場所へ行き、午後にシロップ作りを行った。

翌日、休みだった保育士へ地域の方からの情報があり、梅を取ったことやシロップ作りの事を伝えていた。

地域からの情報で遊びが楽しくなる事例となる。梅シロップは数カ月後に他のクラスの子どもへ5歳児がふるまう予定であり、その時には各クラスへ梅シロップのドリンクを配りながら、梅の木などの話しを子どもたち自らする予定である。

4. おわりに

全国の保育所等で行われている保育のなかに、情報を活用し遊びが楽しくなる事例がたくさんある。また、目・手など五感で感じたことを言葉や絵などで表現し伝えることが行われている。

今回の事例のように日常的な保育のなかにある情報教育が広く紹介され、共有が進むと、情報教育を意識した保育が広がり、内容も充実してくると考えられる。

参考文献

- (1) 厚生労働省：保育所保育指針(平成29年3月)